

## C-4 : プレアワード

# ファンディングエージェンシー担当者との対話

8月29日（火） 10:40-12:10 会場H（3階）

本セッションでは、ファンディングエージェンシーの中でもシンクタンク的な機能を担っている部門の担当者をお呼びし、日本の科学技術イノベーションエコシステムが更に進展するためのあり方として、「URAとファンディングエージェンシーとの対話」を取り上げます。

まず、登壇者（JST研究開発戦略センター／NEDO技術戦略研究センター）から日頃行っている業務（科学技術政策立案、研究重点領域提案、研究プログラム設計支援など）に加えて、実際に関わっているトピックス（SciREX（科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業）、研究基盤の整備、拠点形成事業の展開、TSC Foresightなど）を説明してもらい、その調査・分析・提案等のプロセスにおいて課題となっていること（例えば科学技術動向等のエビデンスの集め方、研究現場における問題の発見など）を紹介頂きます。その上で、より研究現場に近いところで、学内研究資源（研究者やその研究環境、ホットな研究トピックスや研究成果など）を常にウォッチし、大学経営に資する情報分析、戦略立案等を行っているURA（組織）に対し、直接的、間接的な情報共有や連携等の面で期待すること、実践へのアドバイス等についてご意見を伺いたと思います。

未定ですが、本セッションの登壇者には、個々のURAが自由に繋がることを目的として、特定の興味ある事柄に沿ったコーナーを設ける「ネットワーキングセッション」にもお付き合い頂こうと考えております。個別の質問や深い議論等がある方は、そちらへもご参加ください（ネットワーキングセッションの詳細は予稿集「ネットワーキングセッション」概要をご覧ください）。

以上、これらの試みを通じて、本大会のコンセプト「大学の新たな機能としてのURA」の議論が深まることを期待したいと思います。

## オーガナイザー／司会者



**丸山 浩平**：早稲田大学 研究戦略センター 教授

1994年JUKI（株）入社。産業用機械のR&Dに従事した後、全社の技術戦略、新規事業開発等を担当。2004年博士（工学）（東京農工大学）。2005年から早稲田大学生命医療工学研究所でバイオセンシング研究に従事。2009年から同研究戦略センター准教授。2012年から東京農工大学主任URA。2014年から早稲田大学研究戦略センター准教授（2017年同教授）。東京農工大学非常勤講師、JST研究開発戦略センター特任フェローを兼務。専門は技術戦略企画、計測学など。

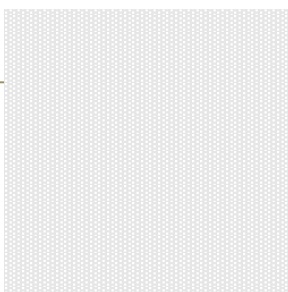
## 講演者


**中川 尚志** : 科学技術振興機構 研究開発戦略センター フェロー

2000年科学技術庁入庁  
 2004年政策研究大学院大学修士卒業（人事院留学）  
 2005-07年内閣府経済社会総合研究所出向  
 2009-11年IODP（統合国際深海掘削計画）リエゾン（米国NSF派遣）  
 2014-16年文部科学省科学技術・学術政策局研究開発基盤課課長補佐  
 2016年6月より現職。  
 専門は、政策研究（研究基盤、計測技術）、科学技術社会論、科学コミュニケーション、技術リテラシーなど。


**小山田 和仁** : 科学技術振興機構 研究開発戦略センター フェロー

2003年東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了。産業技術総合研究所、日本学術振興会、科学技術振興機構を経て、2012年より政策研究大学院大学において文部科学省「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業（SciREX）」の推進に関わる。2017年6月より現職。この他、日本の研究環境の改善に向けた提言などを行う若手ネットワーク「サイエンス・トークス」の委員を務める。


**成毛 治朗** : 新エネルギー・産業技術総合開発機構  
 技術戦略研究センター 主任研究員

1991年 千葉大学応用化学科助手、1995年 東京工業大学・資源化学研究所助手、2000年（同）助教授（准教授）。大学での専門は無機構造化学・無機材料化学。蛍光材料、イオン伝導体、薄膜への応用研究に従事。2015年からNEDO技術戦略研究センター ナノテクノロジー・材料ユニット主任研究員として、技術戦略の策定に従事。